

2018年度(平成31年3月期) 第1四半期決算説明資料

IHI

2018年8月7日

株式会社 IHI



目次

1. 2018年度第1四半期 連結決算

連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益.....	8
特別損益.....	9
連結貸借対照表.....	10
補足資料.....	11

2. 2018年度 連結業績見通し

通期業績見通し.....	15
報告セグメント別内訳.....	16

3. 報告セグメント別の概況

資源・エネルギー・環境.....	19
社会基盤・海洋.....	21
産業システム・汎用機械.....	23
航空・宇宙・防衛.....	25

<参考資料>.....	27
-------------	----

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

1. 2018年度第1四半期 連結決算

1. 2018年度第1四半期 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2018年度1Q 売上平均レート(米ドル) 108.22円

(億円)

	'17年度1Q	'18年度1Q	増減
受注高	2,903	2,416	▲ 486
売上高	4,024	3,371	▲ 652
営業利益	254	127	▲ 127
経常利益	218	167	▲ 50
税金等調整前 四半期純利益	188	167	▲ 21
税金費用	▲ 57	▲ 93	▲ 36
親会社株主に帰属する 四半期純利益	117	61	▲ 55

'18年度1Qには、過年度法人税等として▲43億円が含まれています。

2017年度において、一部の海外連結子会社の決算日を12月31日から3月31日に変更しており、該当する海外連結子会社の会計期間が6か月となっています。この影響により、前期の売上高で579億円、営業利益で14億円がそれぞれ増加しています。

1. 2018年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

(億円)

	受 注 高			受 注 残 高		
	'17年度1Q	'18年度1Q	増 減	'17年度末	'18年度1Q	増 減
資源・エネルギー・環境	735	555	▲ 180	6,485	6,125	▲ 359
社会基盤・海洋	327	265	▲ 61	2,061	2,051	▲ 9
産業システム・汎用機械	1,306	1,153	▲ 153	1,610	1,726	116
航空・宇宙・防衛	469	386	▲ 83	5,330	4,599	▲ 730
報告セグメント計	2,838	2,360	▲ 478	15,487	14,504	▲ 982
そ の 他	184	161	▲ 23	184	197	13
調 整 額	▲ 120	▲ 104	15	-	-	-
合 計	2,903	2,416	▲ 486	15,671	14,701	▲ 969

海外受注高・受注残高	1,391	903	▲ 487	6,254	5,395	▲ 859
海外受注高・受注残高比率	48%	37%	▲ 11%	40%	37%	▲ 3%

1. 2018年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

(億円)

	売上高			営業利益		
	'17年度1Q	'18年度1Q	増減	'17年度1Q	'18年度1Q	増減
資源・エネルギー・環境	1,358	843	▲ 515	▲ 7	▲ 1	6
社会基盤・海洋	299	285	▲ 13	33	7	▲ 25
産業システム・汎用機械	1,211	1,048	▲ 162	44	40	▲ 4
航空・宇宙・防衛	1,117	1,175	58	186	90	▲ 95
報告セグメント計	3,986	3,352	▲ 633	256	137	▲ 119
その他	129	135	5	▲ 4	▲ 3	1
調整額	▲ 91	▲ 116	▲ 25	2	▲ 6	▲ 9
合計	4,024	3,371	▲ 652	254	127	▲ 127

海外売上高	2,448	1,783	▲ 664
海外売上高比率	61%	53%	▲ 8%

前期に一部の海外連結子会社の決算日を変更したことに伴うセグメント別の影響については、決算短信のセグメント情報を参照ください。

1. 2018年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(営業利益の前期比増減要因)

(億円)

	売上高の増減	工事採算の変動	為替の変動	販管費の変動	報告期間統一の影響	合計
資源・エネルギー・環境	▲ 9	8		6	1	6
社会基盤・海洋	▲ 3	▲ 21		▲ 1		▲ 25
産業システム・汎用機械	24			▲ 12	▲ 16	▲ 4
航空・宇宙・防衛	▲ 36	▲ 50	▲ 7	▲ 3		▲ 96
報告セグメント計	▲ 24	▲ 63	▲ 7	▲ 10	▲ 15	▲ 119
その他	3	▲ 2		▲ 1	1	1
調整額		▲ 2		▲ 7		▲ 9
合計	▲ 21	▲ 67	▲ 7	▲ 18	▲ 14	▲ 127

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

1. 2018年度第1四半期 連結決算

営業外損益

IHI

(億円)

	'17年度1Q	'18年度1Q	増 減
金融収支	0	0	0
持分法による投資損益	4	38	33
為替差損益	4	16	12
その他	▲ 45	▲ 14	30
営業外損益	▲ 36	39	76

期末日レートの変動(米ドル) '17年度1Q ▲0.19円 (期首112.19円→1Q末112.00円)
 '18年度1Q +4.30円 (期首106.24円→1Q末110.54円)

1. 2018年度第1四半期 連結決算 特別損益

(億円)

	'17年度1Q	'18年度1Q	増 減
特 別 利 益	—	—	—
商業運転中のボイラ設備に係る 和解関連費用	▲ 29	—	29
特 別 損 失	▲ 29	—	29
特 別 損 益	▲ 29	—	29

1. 2018年度第1四半期 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	'17年度末	'18年度1Q末	増減
資産合計(※1)	16,334	16,288	▲ 46
(うち 売上債権)	(4,003)	(3,775)	(▲ 227)
(うち 棚卸資産)	(4,285)	(4,441)	(156)
負債合計(※1)	12,832	12,759	▲ 73
(うち 仕入債務)	(3,049)	(2,949)	(▲ 99)
(うち 前受金)	(1,778)	(1,799)	(21)
(うち 賞与引当金)	(261)	(144)	(▲ 117)
(うち 有利子負債残高)	(3,222)	(3,395)	(172)
純資産合計	3,502	3,528	26
株主資本	3,132	3,145	13
その他の包括利益累計額	113	125	11
非支配株主持分等	256	258	1
負債・純資産合計(※1)	16,334	16,288	▲ 46
D/Eレシオ(※2)	0.92倍	0.96倍	0.04倍
自己資本比率	19.9%	20.1%	0.2%

有利子負債残高には、リース債務残高('17年度末:182億円, '18年度1Q末:178億円)を含んでいます。

(※1) 税効果会計に係る会計基準の一部改正に伴い、'17年度末の連結貸借対照表の組替を実施しています。

(※2) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

(1) 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	'17年度1Q	'18年度1Q	増 減
営業キャッシュ・フロー	104	▲ 66	▲ 171
投資キャッシュ・フロー	67	▲ 196	▲ 264
フリー・キャッシュ・フロー	172	▲ 263	▲ 435
財務キャッシュ・フロー	▲ 220	95	315

(2) 研究開発費・設備投資額・減価償却費

(億円)

	'17年度1Q	'18年度1Q
研究開発費	70	70
設備投資額	101	103
減価償却費	115	101

設備投資額, 減価償却費は, 有形固定資産に係る金額を示しています。

(3) 海外売上高

(億円)

	'17年度1Q	'18年度1Q
ア ジ ア	368	337
中 国	321	323
北 米	1,159	797
中 南 米	55	35
欧 州	472	272
そ の 他	69	17
合 計	2,448	1,783
海外売上高比率	61%	53%

2. 2018年度 連結業績見通し

2. 2018年度 連結業績見通し 通期業績見通し

前提為替レート 米ドル **105円**(前回見通し公表時 **105円**)
 (第2四半期以降) ユーロ **130円**(前回見通し公表時 **130円**)

(億円)

	前回見通し ('18年度通期) A	今回見通し ('18年度通期) B	前期実績 ('17年度通期)	増減 B-A
受注高	15,000	15,000	15,050	0
売上高	15,000	15,000	15,903	0
営業利益	850	850	722	0
経常利益	650	650	214	0
親会社株主に帰属する 当期純利益	320	320	82	0

前回見通しは、2018年5月9日公表の業績予想数値です。

(参考)為替感応度(為替相場の1円の変動により、営業利益に与える影響額)

米ドル 7億円 ユーロ 0億円

2. 2018年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

(億円)

	前回見通し (’18年度通期)	今回見通し (’18年度通期)	増 減
資源・エネルギー・環境	3,800	3,800	0
社会基盤・海洋	1,400	1,400	0
産業システム・汎用機械	4,700	4,700	0
航空・宇宙・防衛	4,900	4,900	0
報告セグメント計	14,800	14,800	0
そ の 他	700	700	0
調 整 額	▲ 500	▲ 500	0
合 計	15,000	15,000	0

2. 2018年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益通期見通し)

(億円)

	前回見通し (’18年度通期)		今回見通し (’18年度通期)		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・環境	3,900	200	3,900	200	0	0
社会基盤・海洋	1,500	120	1,500	120	0	0
産業システム・汎用機械	4,400	220	4,400	220	0	0
航空・宇宙・防衛	5,000	440	5,000	440	0	0
報告セグメント計	14,800	980	14,800	980	0	0
そ の 他	700	30	700	30	0	0
調 整 額	▲ 500	▲ 160	▲ 500	▲ 160	0	0
合 計	15,000	850	15,000	850	0	0

3. 報告セグメント別の概況

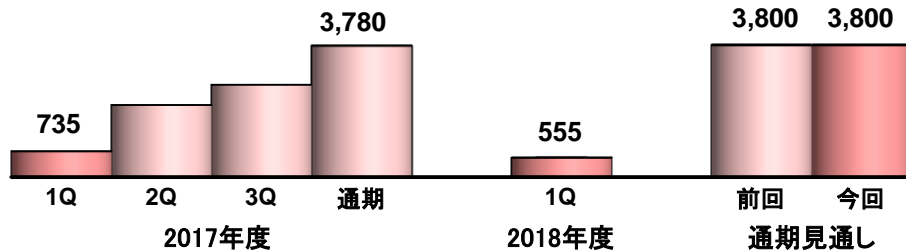
3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2018年5月9日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 陸用原動機プラント, 中型原動機, 大型原動機, プロセスプラント,
原子力, 環境対応システム, 医薬プラント

受注高



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

プロセスプラントなどで減少しました。

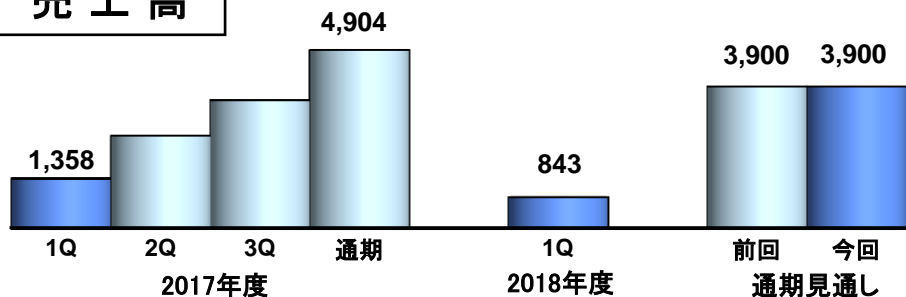
【売上高】

前期の報告期間統一の影響のほか、プロセスプラントにおいて前期に大型プロジェクトが進捗した反動や、陸用原動機プラント、中型原動機などで減収となりました。

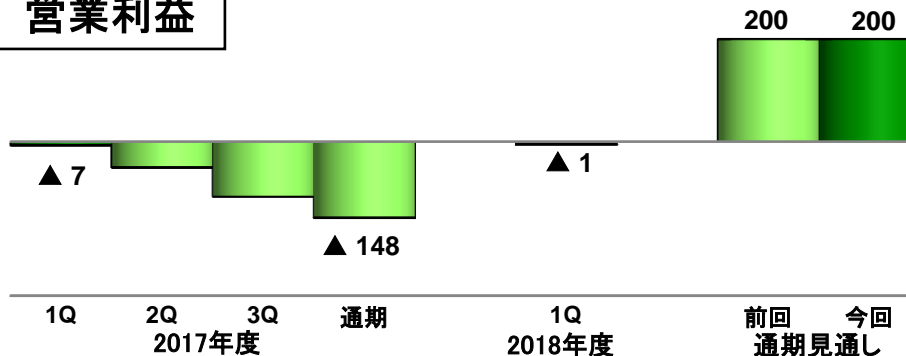
【営業利益】

上記の減収の影響はあるものの、中型原動機や原子力の採算改善、販管費の減少などにより、ほぼ横ばいとなりました。

売上高



営業利益



<通期見直し 対前回見直し 増減内訳>

受注高, 売上高, 営業利益いずれも変更ありません。

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

	受注高		売上高					
	'17年度 通期	'18年度 通期 (見通し)	'17年度			'18年度		
			1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	通期 (見通し)
ボ イ ラ	1,304	1,220	254	700	998	1,481	270	1,200
陸用原動機プラント	353	300	64	110	167	257	28	250
中 型 原 動 機	584	620	145	285	409	586	117	600
プロセスプラント	440	550	691	997	1,263	1,491	222	700
原 子 力	219	280	52	103	169	338	50	400

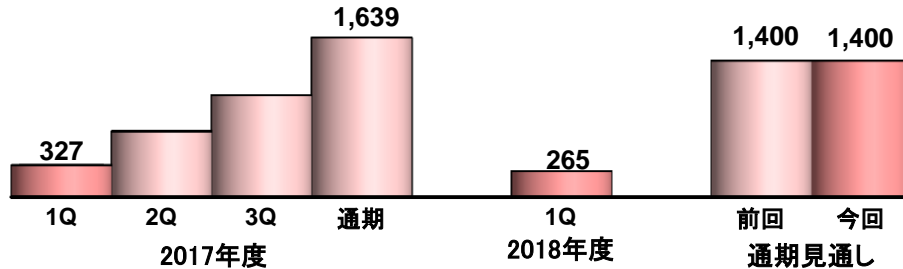
3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2018年5月9日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁・水門, シールドシステム, 交通システム, コンクリート建材,
都市開発, F-LNG・海洋構造物

受注高



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

橋梁・水門で減少しました。

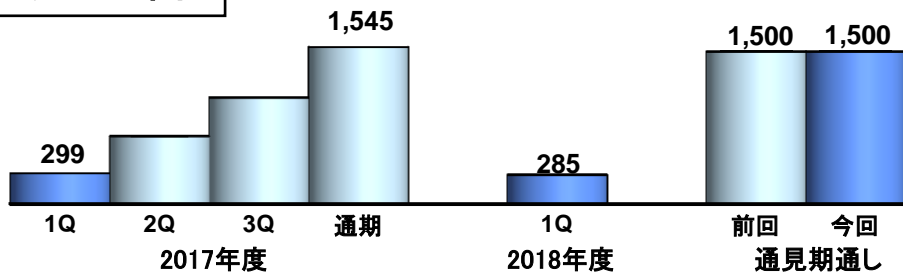
【売上高】

橋梁・水門で増収となったものの、シールドシステムやF-LNG・海洋構造物で減収となりました。

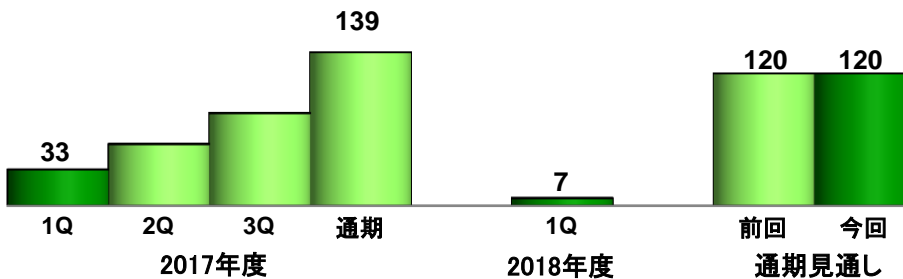
【営業利益】

シールドシステムや交通システムで減益となりました。

売上高



営業利益



<通期見通し 対前回見通し 増減内訳>

受注高, 売上高, 営業利益いずれも変更ありません。

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高		売上高					
	'17年度 通期	'18年度 通期 (見通し)	'17年度			通期	'18年度	
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	通期 (見通し)
橋梁・水門	1,031	700	128	267	427	673	152	800
シールドシステム	102	200	59	115	189	244	40	185
F-LNG	▲7	-	24	91	103	112	9	15
都市開発	162	170	42	89	125	169	37	170

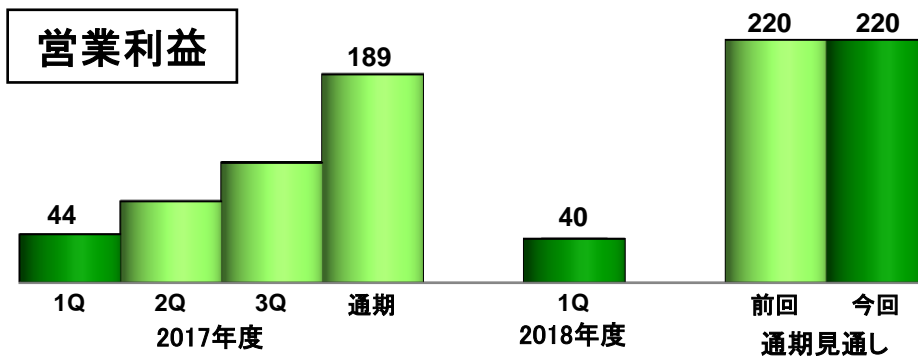
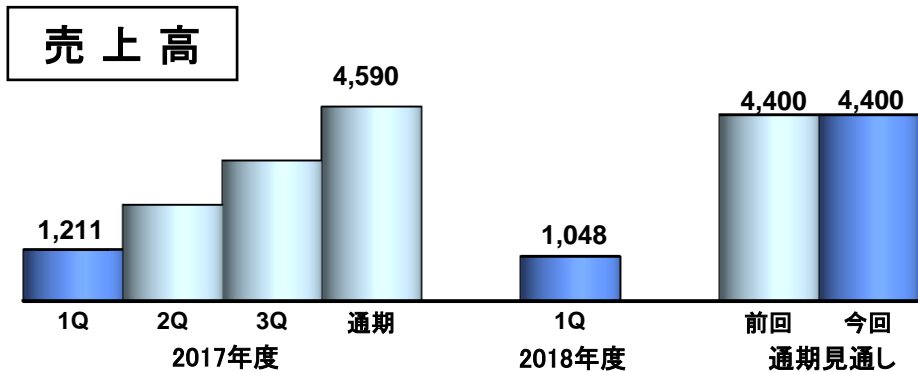
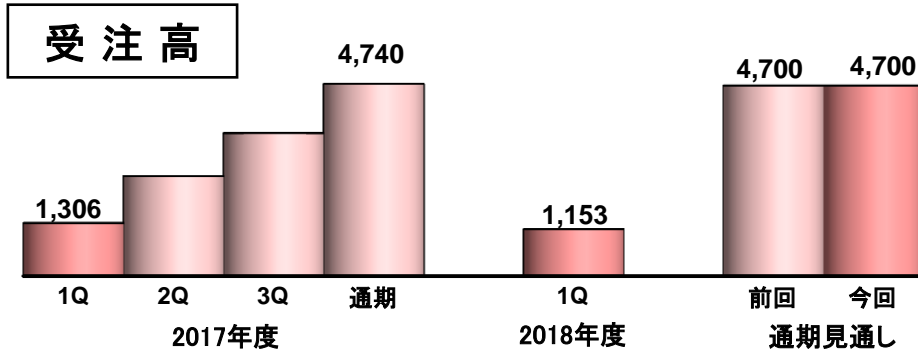
「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P33、P34の<参考資料>をご覧ください。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2018年5月9日公表の業績予想数値

主要事業: 物流・産業システム, 運搬機械, パーキング, 熱・表面処理, 車両過給機, 回転機械, 農機・小型原動機



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

車両過給機や熱・表面処理で減少しました。

【売上高】

前期の報告期間統一の影響を除くと、車両過給機や熱・表面処理などで増収となったものの、全体では減収となりました。

<車両過給機の販売台数>

(万台)

販売年度	1Q	通期
2017年度	265	790
2018年度	181	720

※2017年度の値には、報告期間統一の影響を含んでいます。

【営業利益】

熱・表面処理などで増収の影響はあるものの、前期の報告期間統一の影響や販管費の増加により、ほぼ横ばいとなりました。

<通期見通し 対前回見通し 増減内訳>

受注高, 売上高, 営業利益いずれも変更ありません。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

	受注高		売上高					
	'17年度 通期	'18年度 通期 (見通し)	'17年度			通期	'18年度	
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	通期 (見通し)
運搬機械	252	390	32	105	178	283	50	250
パーキング	513	470	78	171	289	428	77	460
熱・表面処理	503	420	132	230	326	438	111	400
車両過給機	2,201	1,950	691	1,179	1,664	2,205	516	1,950
回転機械	481	540	82	188	298	435	106	500

「車両過給機」の詳細は、P32の<参考資料>をご覧ください。

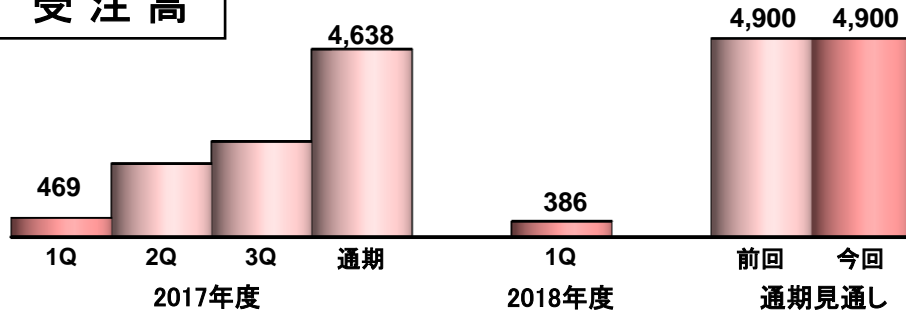
3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円/各期の金額は累計)

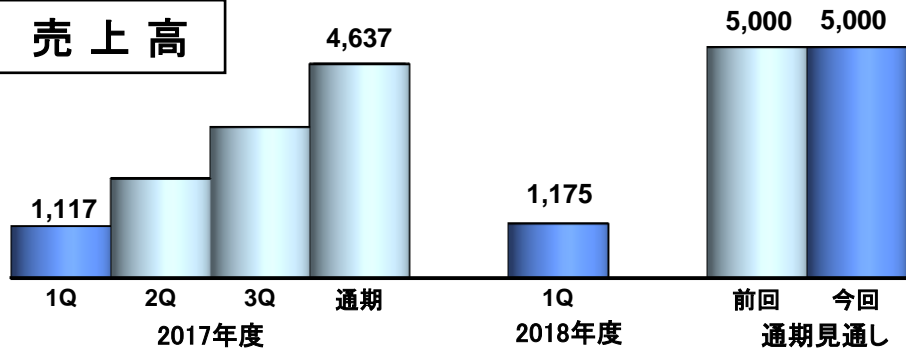
前回: 2018年5月9日公表の業績予想数値

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム

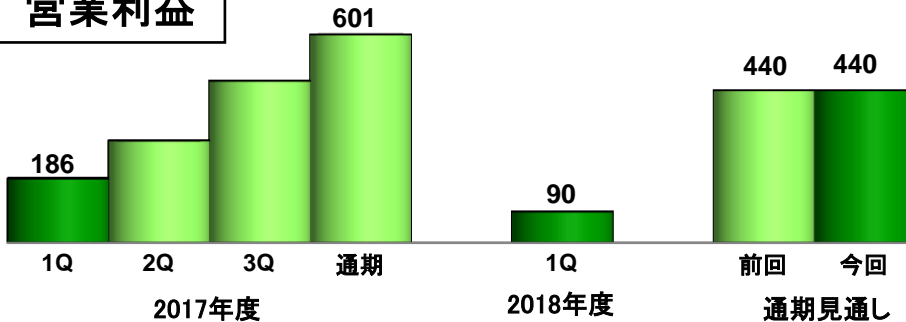
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】
防衛省向け航空エンジンで減少しました。

【売上高】
民間向け航空エンジンで増収となりました。

<民間向け航空エンジンの販売台数> (台)

販売年度	1Q	通期
2017年度	343	1,206
2018年度	390	1,700

【営業利益】
新型のPW1100Gエンジンの販売増加による影響や、メンテナンス・プログラムに伴う費用負担の増加などにより、減益となりました。

<通期見通し 対前回見通し 増減内訳>

受注高, 売上高, 営業利益いずれも変更ありません。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

	受注高		売上高					
	'17年度 通期	'18年度 通期 (見通し)	'17年度			通期	'18年度	
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	通期 (見通し)
民間向け 航空エンジン	3,191	3,400	697	1,413	2,166	2,810	731	3,250

「民間向け航空エンジン」の詳細は、P31の<参考資料>をご覧ください。

<参考資料>

- ・海外大型案件の進捗状況
- ・当第1四半期のトピックス
- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

エルバ天然ガス液化設備



完成予想図



2018年6月末現在

<進捗状況>

2018年6月末現在で、No.1~7液化モジュール (MMLS) 据付工事と、BOP機械・電計工事を進行中。進捗は設計:100%, 調達:97.2%, 据付:71.7%, 試運転:5.4%, プロジェクト全体:71.2%。

<主要工程>

- 2016年3月: 契約締結
- 2016年11月: FERC (米国連邦エネルギー規制委員会) の建設許可承認 (仮設工事着工承認)
- 2017年2月: No.1トレイン液化モジュール (MMLS) 現着開始
- 2018年11月: No.1トレイン, BOP引き渡し (液化運転開始)
- 2019年8月: プラント全体引き渡し

<プロジェクト概要>

- ・契約内容:エルバ島 天然ガス液化設備のEPC契約
- ・建設地:米国ジョージア州 チャタム郡 サバンナ エルバ島
- ・担当範囲:年産約250万トンの液化設備の設計 (液化モジュールはお客さま支給), 建設, 試運転

MMLS: Movable Modular Liquefaction System

液化トレインはプラント全体で10トレインあり, 1トレインは79モジュールで構成

ジマイーストパワー石炭火力発電所



完成予想図



2018年6月末現在

<進捗状況>

2018年6月末現在, #1ボイラ諸配管・電気集塵機, #2ボイラ鉄骨・耐圧部を据付中。6月初, #1受電完了。ボイラ部分の進捗は設計:約93%, 調達:約96%, 据付:約66%, 試運転:約15%, プロジェクト全体:約89%。

<主要工程>

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 2014年 8月: 契約締結 | 2018年10月: 火入れ(#1) |
| 2017年 1月: 立柱(#1) | 2019年 4月: 火入れ(#2) |
| 2017年 7月: 立柱(#2) | 2019年 6月: 商業運転開始(#1) |
| 2018年 4月: 水圧試験(#1) | 2019年12月: 商業運転開始(#2) |
| 2018年11月: 水圧試験(#2) | |

<プロジェクト概要>

- ・契約内容:IPP事業者のJimah East Power社向け石炭焚き発電所のフルターンキー契約
- ・建設地:マレーシア, ネグリスンビラン州ジマ地区
- ・担当範囲:超々臨界圧石炭火力発電所ボイラ (1000MW×2基) の設計・調達・建設及び試運転

日立LNG基地向け 地上式LNGタンク増設工事に着工

IHIと鹿島建設による共同企業体は4月1日に、東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社から設計・調達・建設業務を請け負っている、日立LNG基地向けの地上式LNGタンク(貯蔵容量23万kl)1基の増設工事に本格着手しました。本工事は、エネルギーを安全かつ安定的に供給するための体制強化を目的としており、関東圏全域のエネルギーセキュリティ向上に貢献するものです。

IHIグループは、世界のエネルギー需要が増大する中、環境に配慮したエネルギーを安定供給するために、今後も積極的に事業活動を行なっていきます。



<完成予想図>

Astaldi社との戦略的パートナーシップ構築について

IHI及びグループ会社である株式会社IHIインフラシステムは、2018年5月に、イタリアの大手建設会社Astaldi S.p.A.(以下、Astaldi社)と、グローバル・パートナーシップ契約を締結しました。また、IHIは、Astaldi社の過半株主である資産管理会社FIN.AST. S.r.l.との間に投資協定を締結しました。なお、投資協定については、出資金支払に関する複数の充足条件が達成された場合に有効となります。

Astaldi社は、イタリア第2位の大手建設会社で、道路・橋梁・鉄道を含む、世界における社会インフラ分野で多くの実績を保有しています。

本契約により、IHIグループが有する橋梁の優れたエンジニアリング能力と、Astaldi社の高いプロジェクト運営能力及び豊富なBOT/PPPの経験を組み合わせ、互いの地理的優位性と技術ノウハウを融合することによって、世界の社会インフラ市場における競争力を今後一層強化していきます。



<ルーマニア・ブレイラ橋 完成予想図> (Astaldi社と共同受注)
※出典: ルーマニア道路インフラ公社

2,000kW級ガスタービンで世界初のアンモニア混焼を実証 ／ アンモニアを燃料とした燃料電池システムによる1kWの発電に成功

IHIは、低炭素社会を実現する新たな燃料として期待されるアンモニアと天然ガスの混焼試験を2018年3月に実施し、2,000kW級ガスタービンでは世界初となる熱量比率20%の混燃に成功したことで、ガスタービンの燃料としてアンモニアを利用する燃焼技術の実用化にめどを付けました。加えて、アンモニアを燃料として直接供給する固体酸化物形燃料電池(SOFC)(※1)システムを開発し、2018年3月に、1kW級の発電に成功しました。

IHIグループは、アンモニアの製造から利用までをつなぐバリューチェーンの構築を目指し、SIP(内閣府総合科学技術・イノベーション会議の戦略的イノベーション創造プログラム)の支援のもと、アンモニアを燃料として利用する、ガスタービンや石炭火力ボイラの燃焼技術や、SOFCのシステム化などに取り組んでいます。また、事業を通じて「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献していきます。

(※1) 固体酸化物形燃料電池(SOFC): 700~900℃で動作する酸化物セラミックスを構成材料とする燃料電池(出典: 国立研究開発法人科学技術振興機構ホームページ)



<アンモニアSOFC>

IHIが「攻めのIT経営銘柄2018」に選定される

IHIは、中期経営計画「グループ経営方針2016」において、収益基盤の強化に向けて、製品・サービスや、ものづくり技術の高度化によってビジネスモデルを変革し、新たなお客さま価値を創出することを目指し、IoTやAIなどのICT技術を活用しています。このような企業姿勢と取り組みが評価され、「攻めのIT経営銘柄(※1)2018」に選定されました。IHIが選定されるのは2016年度に続き2度目となります。

IHIグループは今後も、IoTやAIなどのICT技術の積極的な活用を通じて、ものづくり力の強化や、お客さまに提供する製品・サービスの付加価値向上に取り組み、技術をもって社会の発展に貢献するとともに、新たなお客さま価値を提供していきます。

(※1) 攻めのIT経営銘柄

東京証券取引所に上場している業種(全33種)を対象に、経済産業省と東京証券取引所が共同で、経営革新や競争力の強化のために、ITの積極的活用に取り組んでいる企業32社を、「攻めのIT経営銘柄」として選定。



(1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績									見通し	
	'12	'13	'14	'15	'16	'17年度			'18年度		
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	通期
売上高	1,698	2,260	2,670	2,991	2,915	697	1,413	2,166	2,810	731	3,250

(2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)										主要搭載機
	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18/1Q	
V2500	4,168	4,551	4,980	5,468	5,969	6,469	6,896	7,236	7,508	7,568	エアバス A319/320/321
GE90	1,071	1,223	1,399	1,589	1,806	2,039	2,257	2,457	2,617	2,641	ボーイング B777
CF34	2,604	2,919	3,242	3,548	3,820	4,156	4,471	4,821	5,085	5,144	リージョナルジェット (70~110席級)
GEEnx			118	259	468	751	1,035	1,295	1,542	1,600	ボーイング B787/B747-8
PW1100G							16	148	398	553	エアバス A320Neo
Passport20									13	31	ボンバルディア社 Global7000/8000
合計	7,843	8,693	9,739	10,864	12,063	13,415	14,675	15,957	17,163	17,537	

(注) 販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

<地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績										見通し	
	'12	'13	'14	'15	'16	'17年度				'18年度		
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	通期	
日 本	339	353	375	346	389	101	196	296	398	107	380	
ア ジ ア	248	298	275	216	158	28	57	87	117	26	110	
中 国	181	234	243	249	485	215	383	533	719	175	690	
北 米	13	16	18	24	33	7	19	49	84	28	120	
中 南 米	0	0	7	34	61	11	28	51	74	21	90	
欧 州	432	602	756	743	617	327	492	647	811	156	560	
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	1,216	1,507	1,677	1,616	1,746	691	1,179	1,664	2,205	516	1,950	

(1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績									見通し	
	'12	'13	'14	'15	'16	'17年度			'18年度		
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	通期
賃貸収入	92	91	93	101	93	23	46	69	92	23	93

(2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
'18年度1Q	23	9	6	7

豊洲1~3丁目地区 開発マップ

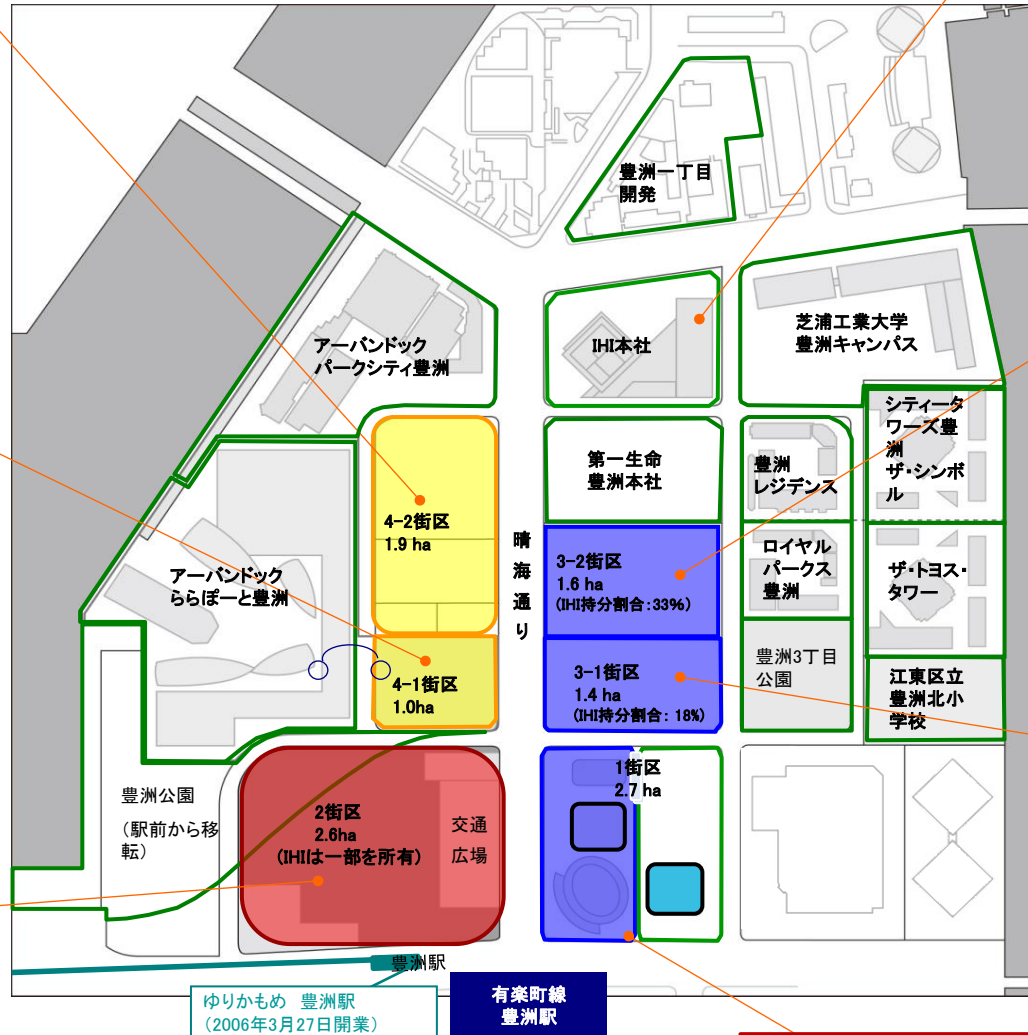
幼稚園、保育園、カフェ、結婚式場
敷地面積：19,492㎡
2010年3月～2011年2月竣工



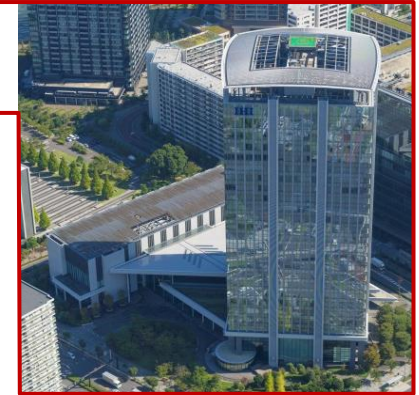
アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEX (三井不動産)
地上5F, 高さ約25m, 延床面積：24,721㎡
2006年10月開業



複合ビルAC棟 (IHI, 三井不動産)
地上36F, 高さ178m, 延床面積約185,000㎡
2020年4月竣工予定



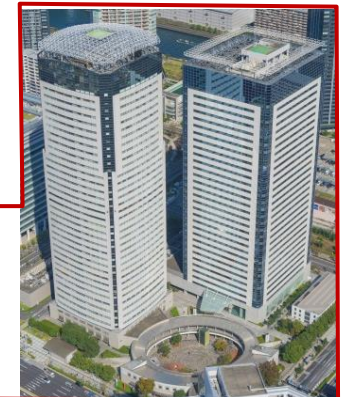
豊洲IHIビル
地上25F, 高さ：約125m, 延床面積：97,617㎡
2006年2月竣工



豊洲フォレシア (IHI, 三菱地所(SPC))
地上16F, 高さ：約75m, 延床面積：101,503㎡
2014年7月竣工



豊洲フロント (IHI, 三菱地所(SPC), 三菱UFJ信託銀行)
地上15F, 高さ：約75m, 延床面積：106,861㎡
2010年8月竣工



豊洲センタービル
地上37F, 高さ：約165m, 延床面積：100,069㎡
1992年10月竣工

豊洲センタービルアネックス
地上33F, 高さ：約150m, 延床面積：105,448㎡
2006年8月竣工

シビックセンター棟：2015年9月開業
消防署棟：2016年6月竣工

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 建物賃貸(借地)
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

IHI所有地	約5ha
--------	------

※1 都市再開発法で定める手法の一つ

IHI

Realize your dreams

ご注意

業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。